



第 34 号

題字・西春彦 著

- 発行所
川辺高等学校東京同窓会
- 編集発行人
鯨坂 悟郎
- 発行日
平成22年10月24日
- 印刷所
株式会社 盈進社
☎03(3262)3471

祝！創立百十周年

東京九段に 18歳〜87歳の二百名が集う！！



87歳の大先輩勢ぞろい



18歳の若人勢ぞろい

東京同窓会第34回総会・懇親会は、平成22年6月19日（土曜日）九段会館において、本部同窓会の前野政美会長、母校の政元智教頭、長野守雄教諭、水溜孝志教諭、恩師の原田（旧姓田中）マスマシ先生、中村典生先生、他校同窓会の吹上高校関東地区同窓会、ふるさと会から関東知覧会、東京加世田会のご臨席をいただき、総勢203名の出席者により開催されました。

恒例の特別講演は、現在外国語教育メディア学会名誉会長の大八木廣人氏（昭27年卒相当）に「イギリスから見た薩英戦争」の演題でお話をいただきました。120席用意した椅子もあつという間に埋まり、会員の皆様は久しぶりの歴史の勉強に熱心に耳を傾けていました。

総会・懇親会では、新卒紹介において今年卒業した4名を含む8名の若人がステージに上がり、元気な声で「川辺」出身、「知覧」出身と自己紹介するとその度同じ出身地の先輩から拍手が起こり会場はいつきに盛り上がりました。年度幹事の昭和42年卒と昭和52年卒の方々のアイデアにより、川辺から取り寄せた「さ

しみこんにやく」の持ち込みやお酒を召し上がらない方への知覧茶のサービスが大変好評でした。また、イベントは、キングレコード所属で川辺出身の辰野友泉さんに「川辺ブルース」（歌詞に諏訪、磨崖仏、とも池あり）を歌っていただき、懇親会に花を添えていただきました。是非大ヒットして川辺の名前を全国区に知らしめていただきたいと思えます。

今年も元気な姿を見せてくださいました最長老の昭和16年卒の遠矢典夫氏に、若人に負けじと元気な声で万歳三唱をしていただき、11時の特別講演から始まった同窓会も14時30分に閉会となりました。

帰りには、出席者全員に創立110周年記念焼酎「神戈陵」及び水溜食品株式会社（南さつま市金峰町）提供の美味しい漬物をお土産に持って帰ってもらいました。当番幹事の昭和42年卒（まとめ役：佐多寛文氏）と昭和52年卒（まとめ役：中原寛文氏）の方々には、お骨折りをいただきありがとうございます。

なお、来年の総会は6月25日土曜日九段会館で開催する予定です。

峯元政公（46年卒）



創立百十周年を再出発の年に

東京同窓会会長
昭和32年卒
鯨坂 悟郎

東京同窓会会員の皆様におかれましてはご健勝のこととお喜び申し上げます。本年6月の第34回総会も総勢203名のご出席を得て盛大に開催することができましたことはご同慶の至りであります。ご出席いただいたご来賓の方々、会員の皆様を始めとして企画運営に当たった役員や年度幹事の昭和42年・52年卒の皆様、その他ご協力いただいたご関係の皆様

様に厚くお礼申し上げます。東京同窓会は来年には35回を迎える立派な歴史を有しておりますがその設立当初より多大なご尽力とご指導を賜りました名誉会長の川野重任氏が7月に、又元副会長の室屋数盛氏が5月にそれぞれお亡くなりになりました。私共同窓生としては誠に痛恨の極みであります。今は両氏のご冥福をお祈りすると共に、受けました恩顧に報いるべくこれから母校の発展と同窓会活動の充実に向けて努力して参ります。

さて、本年は母校創立110周年の記念すべき年であります。記念式典は11月13日母校神戈陵下でとり行われますがその他の記念事業も予定通り進捗している様であります。全館空調設備設置や育英奨学金制度の充実等の為に「110周年記念募金運動」を展開中であり会員の皆様にも再三に亘り募金をお願いをして参りました。取り巻く環境が厳しい中で募金のお願いであり、東京同窓会としては金額もさることながら私たち一人一人の気持ちで母校に届きます様に、出来るだけ人数を増やして行きましようと呼びかけて参りました。この総会時点での結果は、母校全体では目標3000万円に対して1600万円の達成率53%、東京同窓会は目標700万円に対して400万円の達成率57%となっており何れも未達成となっております。只、あの10年前に行われた100周年記念時の東京同窓会の応募人数4

69名に対して、今回は370名のご協力をいただいております。母校全体での3600名に対する1760名と比較すれば東京同窓会の会員の皆様のご協力の度合いがよくお分かりいただけると思います。ここに改めて皆様方のご協力に對しまして深甚なる謝意を表する次第であります。

ところで、明治33年に薩摩半島を中心に立地し、地域に教育文化を育み、幾多の有為な人材を世に送り出してきた母校であります。近年の過疎化・少子化の大きな流れの中で近隣高校との生徒確保競争においては極めて劣勢となっております。平成22年3月の入学試験の結果は4クラス編成160名定員に対し入学者126名という誠に厳しいものであります。後僅かのところで3クラス編成120名定員に転落しかねない母校始まって以来の一大危機となっております。

110周年は一つの事実としてその栄光と伝統を祝しながら、母校始まって以来のこの難局を如何にはね返していくかが現状の大きな課題となっております。

勿論母校の先生方も進学実績等でも分かれますが生徒達への教育指導に一生懸命であります。さらに学区内の各中学に対する受験生勧誘活動にも日常力を入れておられます。又本部同窓会も自治体や地域商工会等と共通の危機意識を持って取り組んでおられます。この困難な現状を突破して母校の存続、活性化を図るにはどうすればよいか。私共東京同窓会は遠く故郷を離れており日常支援することは自ずと限られますが、何とか母校活性化の為に少しでも貢献して行きたいと考えております。各地の同窓会も想いは同じであろうと思っております。願わくば本部同窓会を中心にこの110周年を機会に再度各同窓会への現状認識を周知徹底していただきたい。又県の教育行政へも薩摩半島の今後のあるべき教育の姿等をじっくりと腰を据えて交渉していただきたい。一つ一つ実行しながら110年の伝統を持つ母校の総合力を発揮するのは今しかないと考えます。

母校の存続あつての同窓会であり。皆さん、力を合わせてこの難局を乗り越え、明るい明日を夢見ようではありませんか。

最後に会員の皆様のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。



存続をかけた挑戦の年

本部同窓会会長
昭和30年卒
前野 政美

東京同窓会会員の皆様には、まず御健勝にて御活躍のこととお慶び申し上げます。日頃より学校や同窓会に對しまして御支援・御協力を率先垂範していただいておりますことに、まずは感謝申し上げます。

去る6月19日、九段会館で行われました恒例の第34回東京同窓会は、200名を超える出席者を得、盛大でかつ有意義に開催されました。本日に素晴らしい大八木廣人先生の講演、そして総会・懇親会でありました。

さて、近づいて参りました創立百十周年を何とか成功させたい思いで、私の方から次の2点を皆様にお知らせやお願いをしたいと思います。

まず、11月13日(土)創立百十周年記念式典に向けて動き出しています。この不景気の中、募金への御協力ありがとうございます。全体で当初目標額の53%、東京は57%であります。式典に向けて当面、PTA

300万・同窓会1500万の合計1800万の予算を立て、6月の第5回実行委員会や8月の川辺同窓会での承認も得ました。募金の方はまだ打ち切つてはいけませんので、御協力いただける方は今後も御協力下さい。

次に、百十周年の間に、明治・大正・昭和・平成と移り変わって参りました。子どもの減少により、4クラス：2クラスとなりますと統廃合の対象となります。これだけは絶対に食い止めなければなりません。かねてより申し上げますように、母校あつての同窓会です。百十周年を活性化や挑戦の年とし、現場の学校・PTA・同窓会が一体となって頑張つていかねばと考えています。最後にになりましたが、来年の第35回東京同窓会総会の益々の隆盛を祈念いたしますとともに、会員の皆様の御健勝と御活躍をお祈り申し上げます。



百十周年記念式典迫る

校長 神田 芳文

東京同窓会会員の皆様には、お変わりなくますます御健勝にて御活躍のこととお喜び申し上げます。また、平素から会員の皆様には多大なる御支援をいただいておりますことに心より感謝申し上げます。

さて、去る6月19日に開催されました東京同窓会には、折角お招きいただきながら私事により欠席致しましたことを心より詫言申し上げます。代わりに出席した教頭からは、非常に盛り上がりのある素晴らしい同窓会であつたとの報告を受けており、昨年のことを懐かしく思い起こすことでした。またの再会を楽しみにしております。

ところで、いよいよ百十周年記念式典の日が間近に迫つて参りました。これまで、4月の創立記念講演会、5月の音楽部定期演奏会、6月の文化祭と、「学校創立百十周年記念」を冠した学校行事の全てが例年以上の盛り上がりを見せながら順調に進

んできています。今後、9月の体育祭、10月の33キロメートル遠行、そして、11月の記念式典前日に開催される神戈陵塾、11月13日の記念式典へと進んでいきます。

同窓会事務局も募金活動を始め、式典の準備等に同窓会評議員の皆様方からなどの御協力を得ながら着々と準備を進めているところです。また、各地区同窓会の席上でも、重ねて式典の成功と募金のお願いなどをしてきているところでもあります。東京同窓会の皆様におかれましても、是非、11月13日(土)の記念式典、そのあとに続く、記念祝賀会に、御参加いただき学校創立百十周年を祝つただけだと思ひます。皆様の御参集を心よりお待ち申し上げます。

最後に、東京同窓会の益々の御発展と、会員の皆様方の御健勝と御多幸を祈念申し上げます。あいさつに代えさせてもらいます。



川辺と私

恩師 原田 マスミ

川辺高校東京同窓会にご招待頂きましたことに感謝し、川辺を懐かしんでおります。

大学卒業直後に国語教師として赴任した私は、川辺の豊かな自然の中で、人々の優しさに育てられました。まず、ホセイドー薬局の河野のおばあちゃん、川辺貨物社長だった国生ツギさんに感謝。美味しい三食付き下宿生活は今思っても幸せで希有的ことでした。

厳しきで定評のあった山下巖校長、指導方針の一部には疑問を感じつつも、学ぶところも多く、奥様共々優しくして頂きました。普通教科では初めての女教師ということでしたので、採用して下さったことに感謝すべきだったのかも知れません。

芝原等先生初め国語科の4人の先生方も良き先達でした。なかでも、脇本星浪先生との出会いは、私に俳句の世界の扉を開いてくれました。「ざぼん」鶴への投句。新人故に

褒められ嬉しがっていましたが、それも脇本先生の指導故でした。

現在、鳥取での暮らしも40年近くなり、絵画教室を主宰し、子供達に絵を教えています。数年前に鳥取での画業30年の回顧展を開き、図録の形で画集も作りました。

高校時代から油絵を描いてはいましたが、美術教師だった文田哲雄先生（現鹿児島市立美術館館長）に出会ったことは、今に繋がる大きな力になりました。事情があり、名ばかりの美術部顧問もさせて貰いました。受賞を重ねる伸び盛りの青年画家の仕事ぶりを間近に見せて貰い、その指導を受けることが出来ただけでなく、美術系へ進学する生徒達への指導の有り様も学ぶことが出来ました。そして最後になりましたが、5年間の生徒達との出会いからは沢山の喜びを貰い、学ぶことも多く、私を豊かにしてくれました。心からのありがとうを言わせてください。



文武両道の川辺高生に学ぶ

恩師 中村 典生

毎年8月の甲子園での高校野球大会の放送が始まると15日間見逃せない。たった今、沖縄興南が春夏連覇達成。これが鹿児島のチーム、いや川辺高校だったら、等と身近な高校に置きかえて考えてしまいます。

私の高校野球との関わりが始まったのは、川辺高校に赴任したその日からだったのだと思いつく。放送終了と同時にタイトル・内容・構成等が浮かび、一気に書いてみて決定。

早いもので6月の東京同窓会に参加させて頂き、2カ月が経ちました。関係者の方々に厚く御礼申し上げます。司会進行で頑張った中原信寛さんには教え子の代表として特段のメールを贈りたいと思います。

さて本題ですが、昭和46年4月の赴任の日、土居校長先生自ら天神坊の町営住宅にお見えくださり、歓迎激励のお言葉を受け大感激いたしました。前任者の後、教科・住宅組・顧問・分掌等、全て引き継ぐことになりました。その中で野球部長の受

諾は考えましたが、コンビを組む浜崎先生が初任校での同僚で気心知つた先生であったこと、ここで同じくラスの正・副担任と野球部の監督・部長のコンビを組むことで快諾しました。以来在職した全ての学校で野球部を持つことになり、30年以上見てきた高校生達の純粹で澁澁とした躍動感あふれる行動は私の人生の大部分を占めているのです。

特に川辺高校での野球部との関わりは勉学と運動の両立を見事に生徒諸君が実践し、結果を出していたことに感銘をうけたからです。文武両道を行く。原点を教えてください。素晴らしい生徒達でした。この同窓会で科学技術学園高校の副校長長川平悦郎さんに笑顔で声をかけられ名刺を頂き、同期の野球部員図師田さん以下5人の練習や勉学に打ち込む姿が浮かんできたのです。

いつか川辺高校野球部が甲子園で校歌を奏でる事を願ってバンザイ!!

講演要旨



「イギリスから見た薩英戦争」

昭和27年卒相当 大八木 廣人

一八六三年夏にイギリス艦隊が鹿児島湾にやって来た二日間の戦いを、日本では「薩英戦争」と言いますが、イギリスでは「鹿児島砲撃」と呼び、その事件のきっかけになった「生麦事件」を「リチャードソン殺害事件」と呼びました。

生麦事件は一八六二年の夏四人のイギリス人が馬で川崎大師に向かう途中、江戸を出発した島津久光の乗った駕籠の大行列に遭遇して起こりました。乗馬中の外国人が行列を乱したということで一人が殺害され、他の二人が深手を負った事件のことを指します。殺害されたりリチャードソンは上海から休暇を利用して横浜在住の友人を頼って観光旅行に来ていました。もう一人、香港から来ていた女性を誘って、横浜在住の二人の商人が案内しているとありました。両者が遭遇した場所は横浜市鶴見

区生麦四丁目の旧東海道沿いでした。大名行列に遭遇したら下馬して礼を尽くすという日本の習慣をまったく知らずに行列を乱すことになってしまい、供頭がリチャードソンに斬りかかりました。他の小姓たちも一斉に斬りかかり、リチャードソンは深手を負って七百メートル離れた生麦一丁目付近で落馬し、追っ手に止めを刺されて絶命しました。他の三人は命からがら逃げました。

イギリス政府は幕府に対して賠償金一〇万ポンドを、薩摩藩に対して遺族への賠償金として二万五千ポンドを要求し、更に下手人の処罰を求めてきました。幕府は一〇万ポンド（大八車二三台分）を支払いましたが、薩摩藩はまったく応じなかったので、七隻のイギリス艦隊が鹿児島湾にやって来ました。数回の交渉でも埒があかないのをみたイギリス側

は重富浦に係留されていた三隻の薩摩の艦船を拿捕しました。帆船が引航されているのを見た薩摩藩では砲撃開始のふれが各台場に発令され、ここに薩英戦争が勃発したのです。

二日間の戦いの結果、薩摩藩の損害は、死者五人、重軽傷者一八人、三隻の帆船および多数の小舟の消失・沈没、鹿児島湾内のすべての砲台の破壊、五百戸近い民家の焼失だったのに対して、イギリス側は死者一三名、負傷者五〇名に達していません。イギリス艦隊は目的を達成しないまま鹿児島湾を退去したので、薩摩藩には戦勝気分すらありません。しかし、藩主や側用人たちによる会議では、イギリス艦隊の威力を賞賛する意見が出て、和議を結ぶ方向で意見調整しました。数ヶ月後の横浜での談判で、賠償金は遺族への補償金の名目で支払うが、イギリス艦船

を購入したので斡旋してほしいという唐突な申し出にイギリス側は躊躇しますが、和議は成立しました。四年後には幕府は崩壊し、薩摩藩が賠償金を返済したという記録はありません。

イギリスでは、この事件はイギリス海軍の実質的な損害以上に、国のプライドを傷つけられました。スベインが世界の海洋国であった一六世紀に、一三〇隻の無敵艦隊を大破し、海洋国イギリスの名を誇示してしましたので、弱小国日本の一つの藩に大損害を受けたことは信じられないほどのショックでした。一人の男性が殺害されただけで、イギリス艦隊が鹿児島を攻撃し、何の罪もない市民の生活を奪った行為は文明国ではないと報道され、議会でも「遺憾の意を表明すべきだ」という動議が出ました。議会での主な意見には「リチャードソンが横暴な振る舞いをしたのではないか」「幕府と薩摩の両方に賠償金を要求したのは異常だ」「他国に対しては寛容と人道主義で当たるべきだ」「日本人を野蛮人と見なしで脅しによって従わせようとしたのではないか」「鹿児島湾攻撃は当然の義務だった」などがありました。

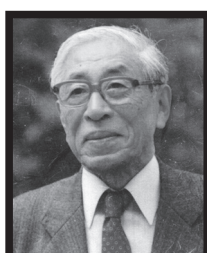
7月22日、川野重任先生が亡くなられましたが、この日は先生の99歳の誕生日と重なり、誕生日と永眠の日が同日であったとは驚きました。

今年5月の連休に川野重任先生のご長男、川野毅様のお取り計らいで入院先の慶友病院へ、お見舞いに行く機会に恵まれました。恐らく、担当医師のご助言があったのだろうと、下園典子様と一緒に、面会することができました。先生のお言葉は聞かれませんでしたが、短い時間の面談、握手を重ね、帰り際に難しい表現ですが、今にも泣き出しそうな難しい笑顔で片手を左右に振り、それが最後のお別れになりました。

明治44年旧加世田市にお生まれになり、大正13年4月鹿児島県立川辺中学校へ入学、昭和4年3月卒業です。小学校は川辺町寄りの川畑小学校、父祖伝来の郷土にある小学校です。最初の1年間は徒歩通学、1時間半余りの田舎道を雲雀の声、麦畑に胸をおどらせながら、共に通ったあのころの日々を夢のように思い出します。2年になってからは自転車を買って貰ってそれで通つたが、文明の利器、当時の金で70円、大学出の初任給と同じだったから、今思えば

大変な高額品であった。月謝5円、1年間60円教育費は誰でも中学校へ行けなかった時代でした。

霜降りの制服に革靴を新調したが、洋服のポケットは外側から手を突っ込むことができないようになっていました。学校についてはからはゲートルを巻いて素足の生活、古い校舎の廊下は全て石畳、創立後20年余の歴史はいたるどころ、先輩達の足跡を残していました。川辺中学校を卒業してから鹿児島第7高等学校、東京



故川野重任名誉会長を偲んで
明治の男 大先輩逝く
川辺中学の憶いで半生 折にふれて
二〇一〇年七月二十二日亡(九十九歳)

川野会長は、いろいろな機会に話をしておりましたが、そのうち「それを書いたものにして、出席しない人たちにも読ませたら」などの要望があつて、遂に、それが小誌「興南誌」の誕生になったというわけです。日本最南端のわが鹿児島県、そのさらにまた、最南端、今や私鉄も南鉄バスも消えた過疎の薩摩半島の旧制中学の同窓はふるさと恋しい気が高まりました。それがそもそも興南会の出発の拠点であつたと思

帝国大学へと進学、卒業後は東大教授、名誉教授と王道を歩きました。

社会活動としては数限りない公務を勤められました。1993年には、「文化功労者」に選ばれて、鹿児島県の誇り、特に、川辺高校卒の大先輩賞賛の功績に心から御礼とお悔やみを申し上げます。

「興南」のこと

旧制川辺中学東京同窓会長として、

ます。

田舎から移住してきた故郷恋しい心境にある人たちの間に広がって、興南誌を通じての人的交流は、今や地元、在京者の別を問わず、広汎かつ、緊密なものとして、拡がりつつあります。その基礎には大都市には地域社会なく、伝統に繋がる人間関係など全くありません。

筆者の回想になりますが、文化功労者川野重任先生の理念は日本の将

来に危惧を感じておられました。品格ある日本民族の愛国心高揚の活動に始まり、その根底には自分を育ててくれた郷土の過疎、高齢化を憂い、「愛郷心」に燃え、子どもをこの教えてくれた「母校愛」は母港となり、ご恩返しに思いが興南の機関紙、創刊になったのだと考えます。つまり、ふるさとを愛することが、国を愛することに繋がるということだと思

地方との情報交流、意見交換というだけでは意味がない。興南会役員は無料奉仕、人件費なし、投稿原稿料の謝礼もないという。ただ、出発点の郷土振興にどう結びついて、どう寄与するか、郷土を動かし、元気ができたのかという協調精神、支援の会員の仲間たちで構成されています。

創始者川野重任先生のご意思を受け継いで、環境の許す限り、続けて尚、ふるさと振興の実をあげることこそ御恩返しになるでしょう。
(鯉坂悟郎同窓会会長様より投稿依頼に応えて)

(安田 至)

室屋数盛さんが亡くなった。東京同窓会の礎を築かれた大先輩である。

1977年(昭和52年)、母校校長原口哲二先生の呼びかけに、同じ昭和10年卒の室屋数盛さん・青屋盛孝さん、昭和16年卒の黒松竹男さんなどが呼応する形でわが東京同窓会は生まれた。初代幹事長室屋さん。私事務局長。当時丸の内の三菱化成にお勤めの室屋さんと私の勤め先都庁は目と鼻の先である。同じ都の交通局に勤めていた稲森虎雄さん(昭

20年、親しくお付き合いをいただくことになる。

忘れられない思い出を一つだけ挙げよう。房総半島アルカディアにあった室屋さんのセカンドハウス。春は辺り一面に自生しているツワ、秋は畑のニガゴリ。どちらも当時東京ではまずお目にかかれない懐かしい食材だ。それを楽しみに役員有志が集まる年2回のパーティ。道子夫人の手料理で焼酎を酌み、眼下に広がる東京湾は遠く鹿児島湾につな



故室屋数盛顧問を偲んで

二〇一〇年五月十五日亡(九十三歳)

和20年卒)と一緒によくオフィスに伺っては会の将来を語り合った。草創期の高揚をそのまま体現した室屋さん。この人なくして今の同窓会はあり得なかったと言っている。

ご縁ということではさらに昔に遡る。中学時代の室屋さんも幼時の私も同じ川辺のイゼンモトに住んでいたから、真綿を首に巻いた虚弱児の私を覚えておられて、よく冷やかされたものだった。以来札幌移住まで

がっている!と遠いふるさとに想いを馳せ、果ては隣近所に気兼ねの要らないカラオケになる。室屋さんの持ち歌は決まって「誰か故郷を想わざる」だった。

室屋さんを始め会の礎を築かれた先輩方も今や鬼籍。時は流れ、人は逝く。しかし時に刻まれた記憶は永遠だ。残された後輩の使命はよき伝統を受け継ぐことに尽きる。合掌。

(篠田徹男)

陵友だより

海外の思い出

昭和30年卒 函師田 俊一

南米のオランダ領ギアナ、今のスリナム共和国に赴任以来、30余年中南米と日本を行ったり来たり、最終的にはマフィアーで有名な南米コロンビアのカリブ海側の港町カルタ



ヘーナに20年近く家族と共に住みました。当地は、スペインの植民地時代は南米の主要な港町の一つで、その豊かさからイギリスの海賊から攻められ、街を守るため街の周りに城壁が築かれ、今ではユネスコの世界文化遺産に指定されています。水平線に落ちる夕日は、いつ見ても感激します。また、カリブ海のルーズの大型客船がいつも寄港し、海上自衛隊の練習艦も幾度か寄港しています。のんびりした美しい街と夕日を眺めにもう一度行きたいものと、神戈陵の寄稿文を書きながら思い出しています。

二つの同窓会に感謝

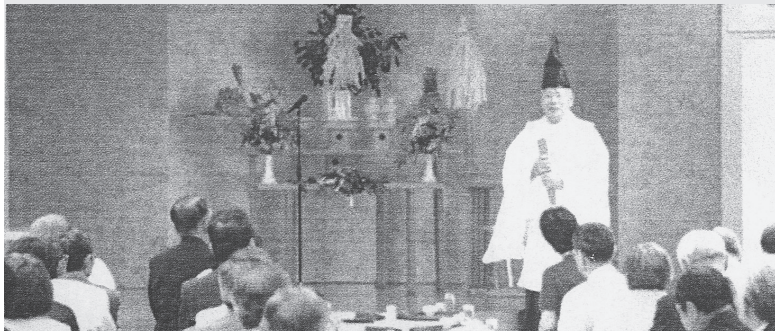
昭和43年卒 参 納 和 子

私共43年卒は5月22日鹿児島サンロイヤルホテルにて『還暦同窓会』を行ないました。

和室にて神主さんにお払いをして頂き、先生方、男性と女性の代表が其々玉串を捧げ同窓生全員の健康と幸せを祈願致しました。神主さんが徳之島出身、しかも泉重千代さんにご親戚と言う事で、特に長寿を保証して頂いて皆大喜びでした。

同窓会では、森田剛さんの「創立

鹿児島県立川辺高等学校 昭和43年卒還暦同窓会



110周年の寄付」の呼び掛けに多くの方が協力しました。
今迄5年毎に開催して来た同窓会ですが、定年になった事でもあり、今後は2年に東京・福岡・大阪・鹿児島島の順に開催する事に拍手喝采で決まりました。又、楽しみが増えそうです。
今年の6月19日の『東京同窓会』では、年度幹事の42年卒の皆様感謝です。

以前「東京同窓会に呼んで欲しい先生」のアンケートに記入した原田(田中)マズミ先生に、卒業式のあと職員室に挨拶に伺った以来でしたが、お会い出来て感激です。

先生の教える姿の懸命さが好きでした。そして今、30年分の先生の画集を手にして、感じたまま懸命に描いた絵を見て、師たるべき人は視えない時でも師として生きているんだな、と感じています。先生、2年後東京で行う43卒同窓会に是非ご出席をお願い致します。いつまでもお元気で。

高尾健康登山

昭和45年卒 足立玲子

東京の西の外れにある高尾山は、山頂に由緒あるお寺があり、江戸の頃から人々に親しまれてきていると聞きます。

高尾健康登山は、字の如く、山歩きで元気をとの趣旨の下、お寺が主催しています。「健康手帳」を求め、高尾山に一回登るごとに朱印を押してもらいます。お寺の縁日21日に因み、手帳は21回で一冊終わります。これで「満行」になるといふしくみです。満行者には精進料理が振舞われ、



小さいながらも名札が境内に掲示されます。一人でも、仲間とでも、毎日でも、月一回でも、とにかく取り組み方は人それぞれ。私は一人で週一回のペースで、一回、二回と満行を重ね、今十三回目を目指して登っています。

ところで、山と言っても、薪とりぐらいしか関心なかったのに・・・入社した会社には登山サークルがあり、隊長は直の上司でした。つられ

て始めた山歩き。でもまもなく山に嵌りました。緑の帽子と緑の靴下のおばさんを見かけたらお声をかけて下さい。

倒産を乗り越えての同窓会

昭和46年卒 岡野信久

三島由紀夫が市ヶ谷駐屯地で森田必勝の介錯で割腹自殺をしたと、5限目の芝原先生が話すと、「おおー」とどよめきが教室内に響いた。その翌年、昭和46年3月卒業した。

一浪後、憧れの東京の大学に進学するのだが、貧乏学生で勉強もせずバイトに専念する日々であった。身の程も知らず「欲の塊」と化し、無知の社会人となった。

約束手形どうするのだ。負債残高4千5百万円落とし前つけてくれ。私は負債の事は知らない。事業継承で印鑑を推したただけだ。

体中がガタガタ震え、全身が溶けて水滴になると思った。31歳の酷暑であった。

診療内科を退院して26年の月日が経た。現在、新宿でスタッフ11名の小さな鍼灸マッサージの会社を営んでおり、精神的なゆとりが出来た。嘗ての同窓生に華の都で会いたいと

あまり知り合いのいない関東での生活の心の支えとなったのは、会社の



平成9年卒
笑顔
下山 理恵子

昨年仕事の関係で生まれ育った鹿児島枕崎から関東に住み始めました。

手紙を書いたら、二人の親友が駆けつけてくれた。友達とは人生を共に歩む旅人で誠に有難い存在と再確認できた。会えなかった親友にも写真



同期の存在でした。

その同期と何かひとつの目標に向かってやり遂げたいという思いから、今年の新宿シティハーフマラソンに挑戦することを決意しました。参加者10数名で練習を重ね、本番当日を迎えました。偶然にもある仲間とゴールの国立競技場に入りました。その時の国立競技場の広さと澄み切った青空は忘れられません。マラソンは個人競技ではありますが苦しい時には仲間も同じ気持ちだと思ひ、みんなで走っている感覚を覚えしました。何よりも走り終えた時に、みんなの晴れ晴れとした笑顔に出会えたことが嬉しいでした。仲間と一緒に完走できたことは、一生の思い出となりました。今はそれぞれの職場で頑張っている同期との繋がりを大切に、自分も今の職場での生活を充実させたいと思います。そしていつか仲間とフルマラソンを完走し、みんなの笑顔に再会したいと思ひます。



ゆめ半島 千葉国体

なぎなた競技会に出場

平成22年9月26日開催の「演技」に母校から1年生の秋葉小生都さん、前野愛美さんの2名が出場しました。鹿児島県知事の伊藤祐一郎夫人も応援に駆けつけていただきました。



◇予報用語◇

- 猛暑日…最高気温が35度以上の日
- 真夏日…最高気温が30度以上の日
- 夏日…最高気温が25度以上の日
- 熱帯夜…一晩中、気温が25度以上の日
- 冬日…最低気温が0度未満の日
- 真冬日…最高気温が0度未満の日

先輩、後輩のみなさん高田馬場の郷土料理「薩摩の里」にぜひおじゃったもんせ!!

新宿区高田馬場4-18-10-2F
TEL 03(3363)3258 FAX 03(3350)1483
予約 40名様可能 営業時間 午後5時より午前1時まで
定休日 第1・第3日曜日 高田馬場駅徒歩5分
店主 山下由人(知覧出身、S48年卒)

＝(男) 全国の社労士ネットワークでサポート＝

ANS 人事労務センター
TEL 03-5825-3090 FAX 03-5825-3170

ASK コンサル協会
TEL 03-5825-3090 FAX 03-5825-3170

〒111-0051 東京都台東区蔵前4丁目5番地6号
URL <http://www.01166.com/>

＝(男) 全国の社労士ネットワークでサポート＝

東京都労働保険協会
TEL 03-3222-4111 FAX 03-3230-1733

全日本社会保険労務士法人
TEL 03-3222-4110 FAX 03-3230-1733

〒101-0061 東京都千代田区三崎町2丁目4番1号 TUG-ビル 8F
URL <http://www.01166.com/>

担当年度幹事から

昭和42年卒

■佐多寛文

還暦も過ぎ一息ついていた時、それは一本の電話から始まった。創立110年の記念すべき年度幹事の要請だった。卒業後42年の空白と、明治からの歴史の重みを感じつつ、企画運営に参加させて頂いた。恩師との再会、多彩なイベント、年代を越えた交流など思い出に残る同窓会でした。本部事務局の皆様有難うございました。

■福永義忠

女性中心で取り敢えずの12名42年卒幹事でしたが、総力で無事役割を終えることができました。今回、個人として恩師と同級生に再会でき感激しました。毎年、回を重ねる川辺高校東京同窓会、これからも郷土や学窓の絆を共有しながら末長く発展することを願います。以前、同窓会に参加した折、故郷を想う献身的努力の話しを聞き、感動させられた有馬先生も今年亡くなられたとの事、

ご冥福をお祈り申し上げます。

今回総会準備に際し、役員の方々にはご指導いただきありがとうございました。また52年卒幹事の皆さん早朝からお疲れ様でした。

■石原えみ子

光陰矢の如し 母校卒業後40数年の時が流れ、今回お手伝いという形で旧交を温める事が出来た事に感謝しております。そして皆様が輝いていた事に感動を覚えました。これもやはり焼酎のおかげ? と納得し、神戈陵をなつかしみつつ美味しくいただきました。ありがとうございました。

■黒田ミキ

今回の東京同窓会では年度幹事に当たり42年卒と52年卒の20数名で幹事をやらせて頂きました。受付に始まり知覧茶のサービス、辰野紀光さんのCD販売、最後のお土産渡しまでどうにかやり遂げる事が出来ました。又、恩師の田中ますみ先生をお招きしての再会も同窓会ならではの楽しいひとときでした。青春の一時を川辺高校で過ごした事を誇りに思い、伝統と歴史ある我が母校が益々発展していく事を陰ながら応援していきたいと思えます。

■中島雅子

明治33の春、桜を見上げ自然と口ずさむ時があります。この時だけ私の脳裏に川辺高校が浮かびます。そうですか、もう110年の歳月が流れていたのですね。記念すべき年に総会のお手伝いで、知覧茶のおもてなしが出来て嬉しかったです。南九州市は穎娃茶・知覧茶・川辺茶の素晴らしい農産物があり、誇りに思います。恩師の原田マズミ先生か



ら、私達にこれからの女性としての生き方のパワーをいただきました。ありがとうございました。

■若宮初子

東京同窓会に年度幹事に当たりお手伝いというお声をかけていただきまして初めて出席参加させていただきました。今年創立110周年という記念すべき年に当たり、先輩方の乾杯と同時に終始白熱した会場で私も元氣と勇気をいただきました。

卒業以来、恩師の原田先生や同期の方々と一緒に初めて再会出来感激し節目の年にお手伝い出来うれしく思いました。今後も歴史と伝統を受け継ぐ後輩の方々の為にもこの会が発展して行く様祈念しています。

昭和52年卒

■中原信寛

我々が卒業し東京に出てきた昭和52年が第一回東京同窓会でした。あれから33年が過ぎても東京で頑張っている大先輩達のエネルギーに圧倒されています。

幹事として十分なお役目が果たせたかどうか反省しています。むしろ一番楽しんでいたのは我々でした。

ありがとうございました。

■上野茂弘

横須賀に単身赴任し4年目に同窓会に出席できて感謝しています。

今年の夏に九州に転勤しますが、東京同窓会はずーっと続けてもらいたいです。

■野中ゆかり

年代を超えての交流会、毎年一回の楽しみです。

二回目の幹事も出来て無事に終えたこと、皆の協力で出来たこと、素晴らしい！

■橋本あい子

「ああーまた会えましたねー！」という人と、お久しぶりという人とみんな今日は昭和50年に戻り青春出来る、これがいんだなー！

■深尾昌代

今日は懐かしい友達に会えてとても楽しかったです。これからも都合を何とか付けて会いたいと思います。ありがとうございます。

■中蘭豊子

久しぶりに会っても昨日会ったみたいに話が盛り上がるのは同級生と改めて思う今日一日でした。

■松元美智子

お疲れ様でした。幹事であるにも

かわらず、自分がとても楽しんでいたように思います。どうもありがとうございました。

■神蘭正喜子

中村先生に卒業して30数年ぶりにお会い出来て、とてもうれしかったです。いつも準備してくださる方々に感謝します。これから少しでもお手伝いする側になろうと思います。

■中嶋満里子

今年の同窓会は幹事と言うことで楽しみに出席させて頂きました。少ししかお手伝い出来ませんでした。楽しい時間を過ごせました。次回を楽しみにしております。

■下澤孝子

二回目の同窓会幹事、参加・協力出来たことに感謝します。毎年、先輩や恩師に会えることを幸せに思います。来年も皆さんの元気な顔が見られるように願っています。

またお会いしましょうね。

■尾籠里美

久しぶりに会えて、旧友はいいですね。楽しかったです。お疲れ様でした。

■小金園明美

なつかしい顔に会えてとてもうれしいひと時でした。

■渡辺淳子

10年ぶりに会う人もいて、いい機会を作ってもらえてありがとうございました。幹事ということではなかなかゆつくり出来なかつたですが、来年は元気で会いたいと思います。

進路状況

	19年度卒	20年度卒	21年度卒
国公立大学	43	29(5)	35(2)
私立大学	100(2)	56(5)	81(9)
国公立短大	13	13	7
私立短大	32	20	22
文部科学省所管外	14	3	14
専門学校	44	51	46
就職	6	6	3

※カッコの数字は過年度卒業生



知的創造

何を創るかはおまかせします
どのように造るかをお手伝いします

企画編集から製本まで
自費出版を応援します!!
カラー名刺・絵ハガキ
小部数でも安価でできますご相談下さい

Eishin 株式会社 盈進社
代表取締役社長 下園典子 (金峰町出身)

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋2-3-2 三信ビル
TEL 03-3262-3471代 FAX 03-5210-7226
URL: www.eishinsya.co.jp Eメール: info@eishinsya.co.jp

関東さつま川辺会

第21回総会は、平成23年2月12日(土) ホテルメトロポリタンエドモンド(千代田区飯田橋)で開催の予定です。多くの方々の御参加をお待ちしております。

会長 川野博一

連絡先/三鷹市中原3-8-30
事務局長 吉留浩一 (0422-26-7065)

がん検診・胃腸科・内科・外科・皮フ科

湘南長沢医院

○診療時間: AM9:00~12:00 PM3:00~7:00
○休診日: 水曜・祭日・日曜午後
院長 鯉坂秀明(昭和28年卒)

横須賀市グリーンハイツ3-8(京浜急行長沢駅前)

TEL046(849)4114

母校だより

ボランティア活動

川辺二日市

生徒会係 栢 元 陽 子 教諭

例年、川辺二日市では生徒会をはじめ多くの生徒達がボランティア活動に参加しています。主な活動内容は、川辺中学校周辺での駐車場案内や「あしなが学生募金」のための募金活動、書道部や美術部の特技を生かした創作作品のプレゼントなどです。ボランティア活動には約100名弱の生徒達が厳寒の中参加しています。駐車場案内では指定された位置で一



人二時間ほどの交代制で係の仕事をしています。安全に車が走行し、駐車出来るように案内することが役割ですが、一生懸命取り組む生徒達に駐車場を利用される方々が「お疲れ様」と温かい労いの言葉を掛けてくださいます。「あしなが学生募金」の募金活動においては、「私も川辺高校の卒業生ですよ、頑張ってください」と川辺高校の諸先輩方が募金と共に素敵な笑顔で励ましの言葉を掛けてくださいます。この募金活動は総額約25万円の善意となり、あしなが学生募金事務局へ送金することができました。また、創作作品コーナーでは書道部は色紙に一文字を書き、美術部は似顔絵を書いてプレゼントしたので、行列が出来るほどの人気ぶりでした。作品が出来上がった後、記念撮影をされる方も多く、嬉しそうに笑っていらつしやる姿は、生徒達にとつて何よりも貴いご褒美ではないかと思えます。

川辺二日市は年に一度の開催ですが、その中で地元川辺高

校生が主体的にボランティア活動をするという経験は他地域では、なかなか出来ない経験だと思えます。このような貴重な経験を基に「社会に喜ばれる」一社会人として成長して欲しいと思います。

老人ホームでの演奏会

音楽部 今 泉 佳 奈

私は、音楽部に所属しています。私たち音楽部の活動の一つに、地域でのボランティア活動があります。この活動は、約8年前から行っており、菊野病院や養護老人ホームでの演奏会を中心に、清掃活動、小学校の運動会でのランチタイムコンサートなどです。

ボランティア活動の中心となっている菊野病院や養護老人ホームでの演奏会では、全体の演奏やアンサンブル演奏を行い、聴いて下さっている方に楽しんでいただけるように、幅広い世代の曲(赤とんぼ・もみじ・鹿兒島おはら節等)を用意し、歌や踊りも入れて工夫しています。

また、養護老人ホームでは、演奏だけでなく、車いす磨きやお話をしてコミュニケーションをはかりなが

ら活動しています。お話などは、演奏とは違い、直接接するので、初めは緊張と不安がありました。一緒に会話をしているうちに楽しくなり、会話をし始めた時よりも笑顔が増えたので、とても嬉しくなりました。

このように、演奏会などのボランティア活動を通じて、一人でも多くの方の笑顔に出会えて、とても嬉しく思い、自分自身も音楽の原点に戻ることが出来るような気がします。

そして、この活動は、音楽の楽しさを伝えながら地域の方々に川辺高校を知っていただく良い機会にもなっていると思えます。これからも、このようなボランティア活動を大切に積極的に行っていきます。



菊野病院での演奏会

最終回となる第32回陵寿会は 3月13日開催された

陵寿会世話人 昭和25年卒 大倉野貞俊

陵寿会は鹿児島県立川辺高等学校東京同窓会の分会として昭和54年に創立された。会のメンバーは還暦以上の会員を以って構成する事にした。毎年還暦となった新人を迎え、現役勤務を慰労し、陣戈陵時代を回顧しながら旧交をあらたにした。また、郷里からは本部同窓会長並びに母校の校長先生を来賓としてお迎えし、母校の現況報告を聞き心の癒しと現後輩への励ましを表したと言う。初代の世話人は文明堂に勤務していた故黒松竹男氏（昭和16年卒）であった。当時はかつて英国大使を務められ、日米同盟や安保条約でも日本の将来の為に奮闘され、昭和60年逝去された西春彦大先輩も出席なされたと聞く。その他、多士済済の先輩も多く出席され、有意義な思ひ出や生き方を話してくれたと言う。2代目世話人は白石晃三氏（昭和19年卒）が務められ、不肖私が3代目となりました。

大戦から敗戦を経て新制高校の2回生となり、陣戈陵下で6年間を過ごしたことになる。私は昭和26年に上京。同30年に横浜国立大学を卒業し読売新聞社に入社した。還暦を迎えたのは平成4年であった。その時、世話人で同郷人でもある黒松竹男氏（亡兄の友人で入社時の私の保証人）から入会を勧められたが、定年延長でまだ勤務中だったので丁重にお断りした。そして、勤務を終えたのは平成10年7月（66歳）であった。それから陵寿会に関わりを持ち、平成14年から白石晃三先輩を引き継ぎ3代目の世話役となった次第。世話人となつてまず驚いたのは還暦入会とは全く絵空事であった。時代は60歳定年に伸び、また大方は65歳まで延長勤務も出来るようになっていた。従つて入会者は少なくなり、陵寿会出席者にも新制高校卒業者が少ない状況である。近年は少子化のため卒業生も関東方面への大学生や就職者も少なくなっている。設立当初の趣

旨も分からない世代が多くなっている。

今年の陵寿会は3月13日例年通り三州倶楽部で開催された。会員の出席者は49名。母校からは神田芳文校長と蔵前勇教諭、本部同窓会から前野政美会長のご出席をいただきました。校長は「少子化の状況から南薩地区高校はいずれも定員割れを起こしています。我が川辺高校も4学級を辛うじて満たすことが出来ました。しかし、国公立進学生の数は年々増加しています。と言うことは学力のレベルが上がっていることの証であります。先生も学生達も本当に頑張っています。県内でも統廃合が進められています。名門の名を残すべく頑張らなければならぬと痛感しております。他の高校は既に実施している空調を我が校も実施しましたが、この工事費の寄付をお願いしております。是非母校の為にご協力をお願いいたします」と申されました。前野会長も「川辺高校は110周年の歴史と伝統を誇る栄えある母校です。私も県の当局に当って身を粉にして頑張っております。皆さんの協力で母校の設備でも他に負けないものを造ってきました。高校が無

かつたら川辺には誇るべきものなくなるのです。是非よろしくお願ひします。」とご挨拶をされました。今回をもつて陵寿会も閉会となりますが、「これからは同窓会の最前中央に皆様年長者の席を設けます」と鱈坂会長も申しています。今後は全員でここに集まり陵寿会の楽しい歓談を致しましょう。



最後の陵寿会

平成21年度 会務報告

21年4月4日 幹事会(郷土料理 薩摩の里にて)

議題

・第33回総会・懇親会について

・役員改選について

・創立110周年記念事業募金について

・役員弔事について

4月12日 評議員会(東京しごと センターにて) 出席者:41名

議題

・第33回総会・懇親会について

・会務報告について

・会計報告について

・役員改選について

・創立110周年記念事業募金について

・役員弔事について

第33回総会・懇親会案内状の発送 作業(東京しごとセンターにて)

5月16日 事務局総会3週間前の 打ち合わせ(喫茶白ゆりにて)

5月30日 事務局総会1週間前の 打ち合わせ(同窓会事務局にて)

6月5日 本部同窓会・母校との 交流会(九段会館にて)

6月6日 第33回総会・懇親会を 開催(九段会館にて)

6月20日 薩南工業高校関東支部 総会へ 鯉坂会長・峯元副会長 出席

7月4日 役員会(郷土料理 薩摩の里にて)

議題

・第33回総会について

・第34回総会について

・会報誌「神戈陵33号」について

・編集等協議

懇親会(本年度、来年度担当幹事、

役員(郷土料理 薩摩の里にて)

7月5日 吹上高校関東地区同窓 会総会へ 鯉坂会長・足立副会 長出席

8月5日 会報誌「神戈陵33号」 の原稿及び広告依頼文の発送

9月12日 東京加世田会総会へ 鯉 坂会長出席

9月10日 会報誌「神戈陵 33号」の校正(同窓会事務局にて)

10月3日 関東知覧会総会へ 鯉坂 会長出席

10月17日 幹事会(同窓会事務局 にて)

議題

・第34回総会・懇親会について

・創立110周年記念事業募金に ついて

役員(郷土料理 薩摩の里にて)

7月5日 吹上高校関東地区同窓 会総会へ 鯉坂会長・足立副会 長出席

8月5日 会報誌「神戈陵33号」 の原稿及び広告依頼文の発送

9月12日 東京加世田会総会へ 鯉 坂会長出席

9月10日 会報誌「神戈陵 33号」の校正(同窓会事務局にて)

10月3日 関東知覧会総会へ 鯉坂 会長出席

10月17日 幹事会(同窓会事務局 にて)

議題

・第34回総会・懇親会について

・創立110周年記念事業募金に ついて

・会報誌「神戈陵33号」について

10月31日 評議員会(東京しごと センターにて) 出席者:37名

議題

・第34回総会・懇親会について

・創立110周年記念事業募金に ついて

・会報誌「神戈陵33号」の発送(東 京しごとセンターにて)

22年2月13日 関東さつま川辺会 総会へ大平副会長出席

2月26日 母校卒業生に記念品 (ボールペン)を贈呈

3月27日 役員会(郷土料理 薩摩の里にて)

議題

・第34回総会・懇親会について

・創立110周年記念事業募金に ついて

・母校の活性化対策(22年度入学 状況)

平成21年度卒業年次別年会費入金者数一覧表(平成19年卒以降を除く)

Table with columns for year (年次), membership count (会員数), and payment rate (入金率) for various graduation years from 2008 to 2021.

平成21年度 川辺高等学校東京同窓会 一般会計報告

自:平成21年4月1日 至:平成22年3月31日

Income and Expense Statement (一般会計報告) showing total income of 2,188,659 and total expenses of 2,188,659.

出席者総数 215名

内訳(会員男性 107名、会員女性 90名、学生 1名、会員外 3名、来賓者 14名)

平成21年度 川辺高等学校東京同窓会 特別会計報告

自:平成21年4月1日 至:平成22年3月31日

Income and Expense Statement (特別会計報告) showing total income of 620,576 and total expenses of 620,576.

上記の件、監査の結果相違ありません。

平成22年6月12日

会計監事

南谷 亘英 (監) 小原 東洋明 (監)

環境革命の シナリー化粧品 「石油からつくられる化学合成物質を原料にしない」製品づくりです

〒140-0013 東京都品川区南大井 6-20-17

シナリーモード営業所

TEL 03-3761-7816 FAX 03-3761-6598

石山 道 (昭和28年卒)

京浜東北線JR大森駅下車北口を右のエスカレーターを降りて徒歩5分。お気軽にお電話下さい。

平成22年3月卒業生関東地区進学者

Table listing graduates and their universities: 有水 真理恵 (都留文科大学), 大迫 美沙都 (〃), 川原 夏美 (〃), 木村 佳南 (〃), 前原 恭兵 (東京農業大学), 酒 匂 茜 (東京家政大学短期大学), 中 村 遙 (日本医科大学看護専門学校).

創立110周年記念式典のお知らせ お友達をお誘いの上是非出席してください。

日時：平成22年11月13日（土曜日）

場所：川辺高等学校及びヒロセ

行 事

亡師亡友慰霊祭	： 8時30分～ 9時00分	「川辺高等学校」
記念式典	： 9時30分～ 10時40分	同上
記念講演会	： 10時40分～ 12時00分	同上
		有馬勉氏（昭和43年卒、元鹿児島県教育委員会教育次長）
移動	： 学校よりマイクロバスで祝賀会場の「ヒロセ」へ	
感謝状贈呈式	： 13時00分～ 13時10分	「ヒロセ」(川辺町両添)
記念祝賀会	： 13時10分～ 15時30分	同上
	会費3,000円	

今年、全国的に猛暑が続き、東京では真夏日71日の記録を更新しました。また、小惑星探査機「はやぶさ」が7年間の宇宙の旅から地球に帰還し、小惑星「イトカワ」から採取した土壌サンプルの入ったカプセルをオーストラリアに落下させその任務を終えました。東京・西鹿児島間を走っていた寝台特急「はやぶさ」も昨年の3月任務を終えました。今度は、来年の3月に東北新幹線「はやぶさ」が運行します。

さて、今回から会報誌の様式をA

編集後記



3版の見開きからA4版の冊子に変えました。今まで慣れ親しんだ様式と違って読みづらい方がいらつしやると思いますが、ご容赦の程お願い申し上げます。母校便りコーナーでは、生徒たちのボランティア活動を掲載しましたので是非生徒のご活躍をご覧ください。11ページの進路状況から専門学校へ進む生徒の割合が全体の22%と多く普通科以外の科を設置してはどうでしょうか。

(峯元46年卒)

編集者 小原(38年卒)・鳥海(38年卒)・椎原(48年卒)・蔵元明(49年卒)・中原(52年卒)・樋渡(55年卒)・田中(56年卒)

陵寿会の最後のお世話役 大倉野貞俊氏ご逝去



十三面に陵寿会の閉会記事を書いていただいて発行を待たずして、十月八日永眠なされました。九月中旬には事務局へメールが届きその内容は、

「心臓大動脈弁狭窄症で大動脈弁を人工弁に交換する手術をしますが、この手術を終え、父の79歳、母の89歳を越えるべく後10年は生きたいと手術を決心し、元気になって美味しい焼酎を飲みたいので頑張ってきました。」と。一ヶ月足らずで79歳の生涯を閉じられた。ただただ陵寿会の催事、運営のお世話役に感謝申し上げます、ご冥福をお祈りするばかりです。

事務局 下園典子